

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

臨床小児医学 (2006.12) 54巻5～6号:133～135.

北海道における脊髄髄膜瘤患者数の推移(1995～2004)

中村英記, 長屋建, 竹田津原野, 林時仲, 藤枝憲二

北海道における脊髄髄膜瘤患者数の推移， 1995-2004

旭川医科大学小児科 1)、周産母子センター 2)

中村英記 1) 長屋建 2) 竹田津原野 2)

林時仲 2) 藤枝憲二 1) 2)

Trends in the number of patients with myelomeningocele in Hokkaido,1995-2004

Eiki Nakamura Ken Nagaya Genya Taketatsu

Tokitsugi Hayashi Kenji Fujieda

1) Department of Pediatrics,Asahikawa Medical College

2) Center for Maternity and Infant Care,Asahikawa Medical College

連絡先 078-8510

旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号

旭川医科大学小児科 中村英記

TEL 0166-68-2481 FAX 0166-68-2489

e-mail:eiki5p@asahikawa-med.ac.jp

keyword: 脊髄髄膜瘤、葉酸

要 旨

2000 年に厚生省より神経管閉鎖障害の発症リスク軽減を目的とした葉酸摂取推奨の情報提供書が出されてから、5 年が経過した。

その効果を評価するために、情報提供書が出された前後 5 年（計 10 年）での北海道における脊髄髄膜瘤患者数の推移を調査した。

10 年間の患者数の総数は 85 名で、性別の内訳は男児 40 名、女児 45 名であった。年度ごとの患者数の推移をみると前半 5 年間の患者数は 34 名、後半 5 年間の患者数は 51 名であり、減少傾向は認められなかった。

葉酸摂取についての情報提供が十分行われていないことが原因である可能性があり、患者数を減らすためには周知徹底を図る必要がある。

本文

はじめに

1990年代初頭、母体への葉酸投与は脊髄髄膜瘤をはじめとする神経管閉鎖障害の発症リスクを減ずることが明らかとなった¹・²。その後欧米を中心に妊娠可能な年齢の女性に対して、葉酸予防投与の勧告が行われ、患者数の減少を認めている³。一方、我が国での脊髄髄膜瘤の頻度は1970年代では10000出生当たり2程度と低かったが、1990年代後半には4前後まで上昇している⁴。その事実をふまえ、我が国でも2000年12月に厚生省から妊娠前後の女性に対して葉酸摂取を奨める旨が都道府県・日本医師会・日本小児科学会・日本産科婦人科学会に通達された(表1)⁵。

通達より5年が経過した現時点で、脊髄髄膜瘤患者数が減少しているかどうかの評価を行った。我が国においては脊髄髄膜瘤の疾病登録システムがないため、全国での患者数の正確な把握は不可能であることから、北海道

における過去10年間の脊髄髄膜瘤の患者数を調査した。

調査方法

(1) 対象

北海道における新生児入院施設を有する総合病院（35病院）を対象とした。

(2) 調査内容

過去10年（1995-2004）における各施設での脊髄髄膜瘤患者入院数と性別を調査した。

結果

35施設に調査用紙を送付し、29施設から回答を得た（回答率83%）。

過去10年間の総患者数は85名で、性別の内訳は男児40名、女児45名であった。年度ごとの患者数の推移を（図1）に示す。2001年と2004年が患者数13名で最も多かった。厚生省通達が出された2000年を境に1995-1999を前半、2000-2004を後半と分けると、前半34名、後

半 51 名 で あ っ た 。

考 察

北 海 道 に お け る 脊 髄 髄 膜 瘤 患 者 数 は 過 去 10 年 間 に お い て は 減 少 し て お ら ず 、 前 半 5 年 と 後 半 5 年 を 比 較 す る と む し ろ 後 半 で の 患 者 数 の 増 加 が み と め ら れ た 。 今 回 の 調 査 は 北 海 道 内 で の 限 ら れ た 施 設 を 対 象 と し た も の で は あ る が 、 地 域 の 小 児 科 基 幹 病 院 は 網 羅 し て お り 、 脊 髄 髄 膜 瘤 患 者 数 の 推 移 に 関 し て は 概 ね 正 確 な 傾 向 を 反 映 し た 結 果 と 考 え ら れ る 。

厚 生 省 通 達 か ら 5 年 が 経 過 し た が 、 ま だ 一 般 へ の 十 分 な 知 識 の 浸 透 が な さ れ て い る と は 言 え な い 状 況 に あ る ⁶ 。 北 海 道 に お い て 患 者 数 減 少 が み ら れ な い 要 因 の 1 つ と し て 、 そ の よ う な 状 況 が 背 景 に あ る こ と が 考 え ら れ る 。

現 在 、 医 療 関 係 者 以 外 の 市 民 が 葉 酸 摂 取 の 重 要 性 に つ い て の 情 報 を 得 る 機 会 は 少 な く 、 公 的 な 情 報 提 供 と し て は 、 母 子 手 帳 の 記 載 な ど に 限 ら れ て い る 。 脊 髄 髄 膜 瘤 の 発 生 時 期 が

妊娠 7 週以前であることを考慮すると、より早い時期での情報提供が必要である。そのためには、学校教育の中での指導なども今後考慮されるべきと思われる。

また、我が国における近年の患者数増加の原因が葉酸摂取不足だけではない可能性があることが従来から指摘されている。今回我々はそこまでふみこんだ調査を行っていないが、今後、両親の年齢・栄養摂取状況・薬剤投与歴などの詳細なプロフィールを網羅した調査を行うことで、新たな知見が得られることが期待される。

結語

北海道において、この 10 年間で脊髄髄膜瘤患者数の減少は見られなかった。原因としては葉酸摂取の重要性についての情報の浸透が不十分であることが推察される。今後患者数を減少させるためには葉酸摂取の重要性をさらに周知していく必要がある。

調査にご協力いただいた以下の各施設の先生方に深謝いたします。

市立札幌病院、道立小児総合保健センター、遠軽厚生病院、旭川厚生病院、帯広厚生病院、札幌医大付属病院、王子総合病院、日鋼記念病院、八雲総合病院、旭川赤十字病院、釧路赤十字病院、苫小牧市立総合病院、岩見沢市立病院、北海道大学病院、NTT東日本札幌病院、天使病院、北海道社会保険病院、手稲溪仁会病院、市立稚内病院、深川市立病院、富良野協会病院、名寄市立病院、北海道立紋別病院、留萌市立病院、市立釧路総合病院、小樽協会病院、市立函館病院、網走厚生病院、旭川医科大学病院（順不同）

以上の内容の要旨は第57回北日本小児科学会（平成17年9月福島市）で発表した。

文 献

- 1.MRC Vitamin Study Reseach Group :Prevention of neural tube defects :results of the medical research council vitamin study, Lancet, 338(8760): 131-137,1991
2. Hernandez Diaz S, Werler MM ,Walker AM ,Mitcell AA: Folic acid antagonists during pregnancy and the risk of birth defects , N Engl J Med ,343(22):1608-1614,2000
3. Czeizei AE ,Dudas I,Prevention of the first occurrence of neural-tube defects by Periconceptional vitamin supplementation, N Engl J Med ,327(26) :1832-1835,1992
4. 先天異常の発生リスクの低減に関する検討会：神経管閉鎖障害の発症リスクの低減に関する報告書，東京，2000
5. 厚生省：神経管閉鎖障害の発症リスク低減のための妊娠可能な年齢の女性等に対する葉酸の摂取に係る適切な情報提供の推進について．厚生労働省通達文．東京．2000
6. 近藤厚生，下須賀洋一：葉酸の認知度調査妊娠中のエネルギー・ビタミン・ミネラル，日本医事新報，No 4244 .23-27，2005

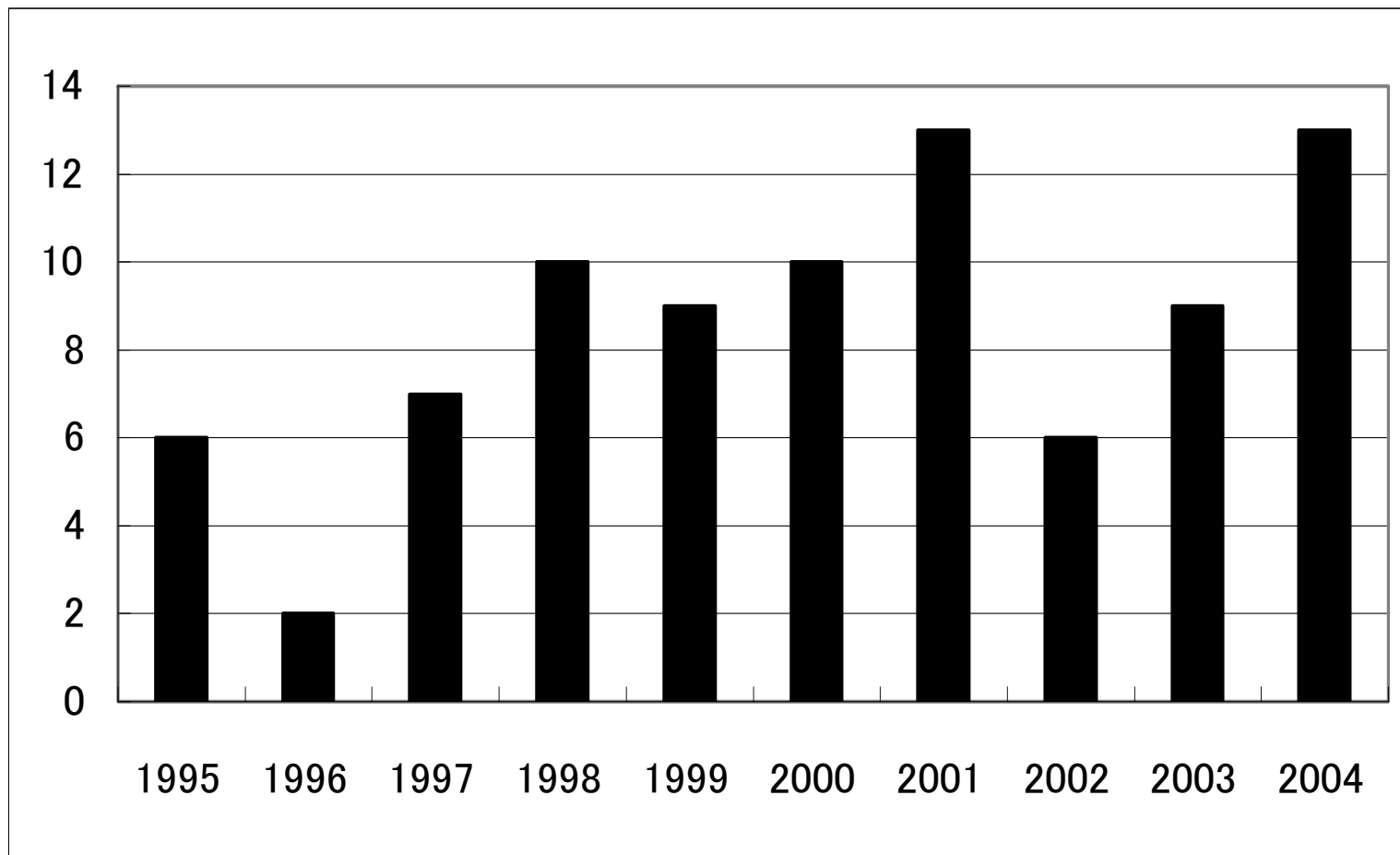


図 1

北海道における1995~2004の脊髄髄膜瘤患者数の推移

表 1

厚生省通達文(要約)2000.12月

- ア 妊娠可能な年齢の女性は、神経管閉鎖障害の発症リスクを低減させるためには、葉酸摂取が重要であるとともに、他のビタミンなどを多く含む栄養のバランスのとれた食事が必要である。
- イ 妊娠を計画している女性は妊娠の1か月以上前から妊娠3か月までの間、葉酸をはじめとした栄養のバランスのとれた食事が必要である。葉酸摂取に関しては食品からの摂取に加えて、いわゆる栄養補助食品から1日0.4mgの葉酸を摂取すれば、発症リスクが集団として見た場合に低減することができる。
- ウ 神経管閉鎖障害児の児の妊娠歴のある女性に関しては、上記の期間、医師の管理下での葉酸摂取が必要である。
- エ 妊娠を計画している女性は、妊娠前からの適切な健康管理が重要である。また妊娠中の禁酒・禁煙が不可欠である。

表 2

神経管閉鎖障害の発症因子

1. 染色体異常
2. 薬剤 (sodium valporate, sakicylate など)
3. 糖尿病
4. 環境因子 (季節・生活環境の違い)
5. 母体の栄養不足
6. 若年母親
7. 葉酸不足 (摂取不足・葉酸受容体抗体の存在による相対的不足)